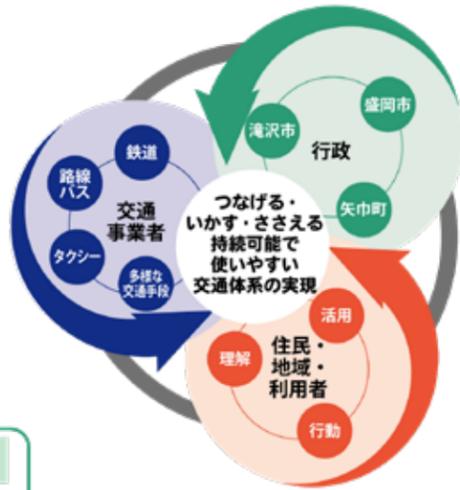


みんなでつくる 地域の交通

人口減少、マイカー依存、コロナ禍などにより、公共交通利用者は減少傾向にあります。公共交通事業者も、運転士不足などが原因の路線廃止や減便を余儀なくされています。「地域の足」である公共交通を「持続可能」なものへ。公共交通のこれからについて考えてみましょう。

持続可能で効果的な地域公共交通へ

令和7年9月、盛岡都市圏において同一生活圏として市町村を跨いだ移動が多い滝沢市、盛岡市、矢巾町の3市町共同で「持続可能で効果的な地域公共交通のあり方を示す」ことを目的として「盛岡都市圏地域公共交通計画」を策定しました。令和8年4月から5年間を計画期間とし、盛岡都市圏の関連計画などにおける理念や将来像を踏まえ、持続可能な公共交通体系の実現を目指し、3つの基本理念と、4つの基本方針を設定しています。



基本理念

つなげる いかす ささえる

持続可能で使いやすい交通体系の実現

基本方針

基本方針① 限りある輸送資源の最適化による持続可能な公共交通ネットワークの形成

基本方針② 地域の実情に合った公共交通利用環境の構築

基本方針③ 地域と利用者の連携・協働による公共交通の推進

基本方針④ 盛岡都市圏の多様な関係者による施策展開の実現

※盛岡都市圏地域公共交通計画の詳細は市HPから

公共交通を「ささえる」行政の取り組み

「ささえる」行政の取り組みとして、都市圏の基幹となる路線バスや鉄道のサービスレベルの維持や地域特性に合った交通手段の導入に取り組めます。さらに「バス運転士確保支援金」の給付や自衛官を対象とした「バス運転士体験乗車会」など、運転士確保のための施策に取り組めます。

令和8年10月からは、これまで別々に運行していた市の福祉バスと患者輸送バスを再編し、新たなコミュニティバスの実証運行を予定しています。公共交通の「空白地」を作らないために、今後もさまざまな課題解決に取り組んでいきます。



【インタビュー】公共交通を「いかす」地域の取り組み
 よしだ りつこ
 柳沢 BBA 吉田 律子 さんに聞きました！

柳沢地区では、住民が地域の公共交通を利用する機会として「福祉バスツアー」を定期的に企画、実施しています。ツアーの企画などを行う吉田さんに話を聞きました。



Q. 福祉バスツアーを始めたきっかけは？

A. 柳沢地区の貴重な交通手段の1つである福祉バスですが、利用者が少ないことが気になっていました。今あるものを残すために、まずは使ってみるきっかけづくりをしようと考えました。

Q. 地域の人の反応は？

A. 「次はいつやるの」や「どこどこに行きたい」といった前のめりな声が増えてきました。乗り方を覚えたことで、ツアー以外にも利用している人もいます。今は、柳沢地区のがん検診受診率向上に向けて「がん検診ツアー」を企画中です。ランチを考えるのが一番の楽しみです。

【インタビュー】「つなげる」公共交通の実現について
 うさみ せいじ
 岩手県立大学総合政策学部 宇佐美 誠史 教授に聞きました！

Q. 盛岡都市圏で取り組むメリットは？

A. これまでは各市町で策定していた公共交通などに関わる計画ですが、実際は1つの市町の中で完結する交通網はありません。その点から考えると、今回の計画策定はよりあるべき生活圏などを考えたものになっていると思います。



Q. これまでの滝沢市の取り組みに対する評価は？

A. 滝沢市の公共交通に関する取り組みは優良な事例が多いです。「たきざわのりものフェスタ」は、大学生や交通事業者と連携した「公共交通を身近に感じる」良い機会でした。多様な関係者との連携がきめ細やかにできている証拠です。

Q. 盛岡都市圏での滝沢市の役割や期待することは？

A. 公共交通の維持は、交通事業者や行政の取り組みだけではできません。利用者である市民の皆さんに、実情や利便性を知ってもらうことから始める必要があります。滝沢市が行ってきた多様な関係者との連携の仕方、公共交通を身近に感じるための取り組みを盛岡都市圏に広めることで、多くの人に公共交通を知って、利用してもらえればと思います。

公共交通は決して永続的にあるものではありません。大切な移動手段を未来に残していくために「自分には何ができるか」を考え、行動していくことが重要です。「ちょっと使ってみようかな——」まずは小さな一歩から始めてみませんか。

●問い合わせ 都市政策課 (☎656-6543)